

# [常陸国分尼寺跡(石岡市)]探訪レポート

右手の石標柱に「常陸国分尼寺址是ヨリ三町」とある



前方が伽藍跡







右手に説明板が見える



案内板に対して右手は南大門跡方向



案内板の右手、正面の木の辺りは中門跡







一直線上に中門跡・金堂跡・講堂跡の礎石群が基壇上にあつて保存されているという



国指定  
特別史跡

# 常陸国分尼寺跡

所在地 石岡市若松三丁目一番  
特別史跡 昭和二十七年三月二十九日  
指定年月日

国分寺・国分尼寺は、天平十三年（七四一）聖武天皇の勅願により、鎮護国家を祈るため、国ごとに置かれた寺院である。

国分尼寺は、法華滅罪之寺といひ、常住の尼僧一〇名を置き、寺院の財政は、水田一〇町によつてまかなわれた。一般に国分尼寺は、国分寺より早く衰退したらしく、今日では、その遺跡すらどこにあるのか不明なものが多い。常陸国分尼寺跡は、一直線上に中門跡・金堂跡・講堂跡の礎石群が基壇上にあつて保存され、全国的に見ても極めて貴重な遺跡である。昭和四十四年から四次にわたる発掘調査により、各建造物基壇の規模や南大門跡、北方建物跡、西及び北を限る溝跡などが明らかにされている。

発掘調査で出土した遺物の中には、瓦類や土器などがあるが、瓦類は常陸国分寺跡出土のものと同形のものが多い。また、土器の中では、「法華」の墨書銘のある土師器が出土しており、法華滅罪之寺を証明する資料となっている。



常陸国分尼寺跡全貌（昭和四十四年）



常陸国分尼寺跡全貌図



瓦片一（法華）



瓦片二



瓦片三



瓦片四

昭和六十年一月

石岡市教育委員会  
石岡市文化財保護審議会

下から南大門、中門、金堂、講堂、北方建物と直線上に並んでいたことが分かる



中門跡(手前の木の辺り)から金堂跡(その向こうの木の辺り/基壇がある)を見る



中門跡から振り返って南大門(正面の学校の手前辺り)を見る



この木の辺りは金堂跡/基壇(土壇)が分かる



金堂跡を左側面から見る



金堂跡から振り返って中門跡(正面の木の辺り)を見る



金堂跡から北方建物跡方向を見る





北方建物跡から振り返って金堂跡(木と基壇の辺り)を見る



ここが北方建物跡



杭がその位置を表しているのか



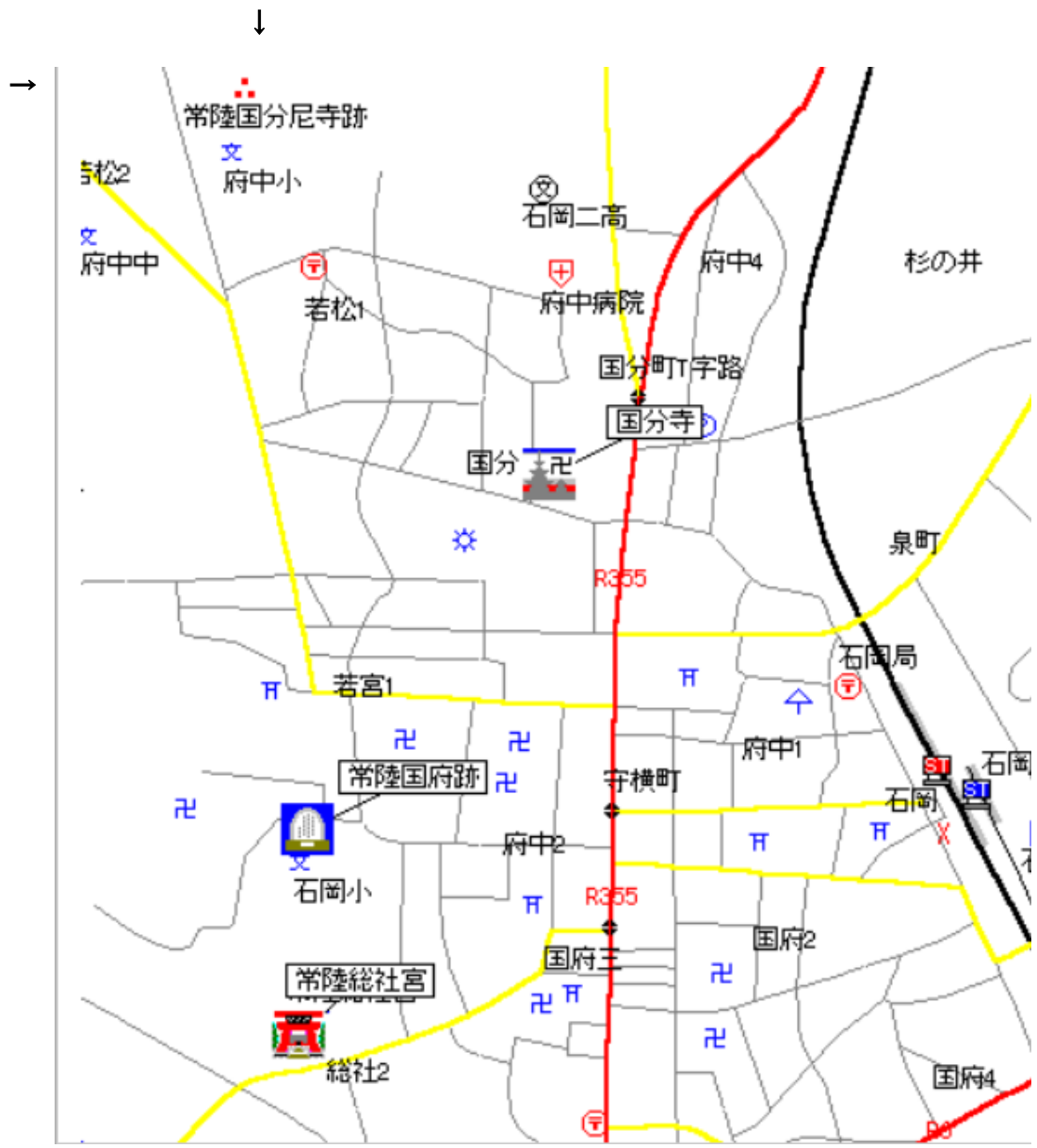
植樹帯は溝跡・土塁を表すようだ





これは中門跡から講堂跡にかけて伸びる回廊跡を表すようだ





参考ホームページ

<http://www.rekishinosato.com/kokubunniji.htm>

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~ogm/siseki/rsfile1/s012.htm>

<http://www.city.ishioka.lg.jp/index.php?oid=391&dtype=1000&pid=234>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/010/index.html>